

ふう けい き こう
風景紀行
 みや
宮の大イチイ
 飛騨森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

『宮の大イチイ』

高山市一之宮町 (旧宮村) を流れる宮川、その最上流部に宮国有林がある。

ツメタ谷林道から天然ヒノキ・サワラ等が鬱蒼とする林内(歩道)を進むと、国内最・大最古といわれる『宮の大イチイ』が姿を現す。推定樹齢二千年、樹高二十五メートル、胸高直径は二・二メートルの巨木である。

幹の一部は腐朽・空洞化し、ミズメ・ヒメコマツ等が着生してはいるが、地元有志・高山市役所一宮支所(旧宮村役場)による保護活動(保護柵設置セラミック炭散布)もあり、今尚青葉を旺盛に茂らせる。

イチイ(二位)は一刀彫で有名だが、名の由来は古来朝廷の使用していた笏(アイスの棒の



◇アクセス方法
 高山市役所一之宮支所(旧宮村役場)から県道九八号線、県道四五三号線で旧清見村方面へ約十一キロ。宮国有林のゲートからツメタ谷に沿って林道を一・

デカイやつ...)をこの材で作ったことから、位階(階級)正一位・従一位にちなんでつけられたとのこと、またこゝ一之宮町でも笏を謹製し朝廷に献上していたという。
 二千年の時を見つめてきた『宮の大イチイ』も、保護活動により今日があるように、私も妻の保護活動?により一年・一日でも長生きしたいものだ。



五キロ、徒歩三十分ほど。途中、看板に従って谷を渡る。
 ※二〇〇三年九月現在、県道四五三号線は途中でゲートにより通行止め。ゲートからツメタ谷入口まで約三キロ。また、熊出没するので注意。